

世代を超えて、地域に根差す ～タイでの事業活動に見るCSR～

THAILAND

- ロップリ工場
- アユタヤ工場
- ロジャナ工場
- バンフ工場
- バンパイン工場
- ナワナコン工場
- チョンブリ工場



ミネベアミツミグループ最大の生産拠点であるタイ。
進出してから約40年の歴史の中で進めてきた現地のCSRをご紹介します。

最大生産拠点として、タイ社会への責任

ミネベアミツミグループのタイでの事業は、1980年、首都バンコク北部のアユタヤ県への会社設立を機に始まりました。以来、約40年かけて6つの工場に拡大。2017年のミツミ電機との経営統合に伴ってバンコク南東部のチョンブリ工場が加わり、現在は7つの工場を展開しています。タイの7工場を合わせた生産高はグループ全体の約40%を占めており、当社グループ最大の生産拠点となっています。

従業員は全体で約3万5千名おり、外資系企業としてはタイで最大規模の雇用主です。工場近くの地域ではたくさんの方が当社で働いており、親子二代で働く人も多数いま

す。また、世界各国への製品輸出額は年間約3,500億円にのぼり、タイの経済発展にも大きく寄与しています。地域社会における当社の存在感と認知度はともに高く、現地を統括する今仲総支配人は「これだけの規模になると、必然的に地域との関係が重要になってきます。従業員と地域社会の両方の期待にしっかりと応えていくことが大切です」と話します。

グループ社は「五つの心得」でCSRを実践

タイにおいても、ミネベアミツミグループの社は「五つの心得」がCSRの基本です。マネジメントは、CSR委員会が

五つの心得

- ▶ 従業員が誇りを持てる会社でなければならない
- ▶ お客様の信頼を得なければならない
- ▶ 株主の皆様のご期待に応えなければならない
- ▶ 地域社会に歓迎されなければならない
- ▶ 国際社会の発展に貢献しなければならない



常務執行役員
東南アジア総支配人
今仲 政幸

ISO26000を参考に実施しています。特徴的なのは、各工場が地域の皆様と直接対話し、各地域の課題に即したテーマを設定してプロジェクトを進めていることです。プロジェクトの結果は必ず次の計画に反映させています。こうした一連の取り組みが評価され、タイ工業省からCSR-DIW※賞を9年連続で受けました。

地域社会へ果たすべき責任として、環境活動にも注力しています。タイ国内の工場は、設立時から省エネ工場を目指しています。一部の工場では排水をすべて集め、法令以上の厳しいレベルまで浄化して敷地内で利用する「工場排水ゼロシステム」を採用しています。これは、事業継続性の上からも非常に重要な取り組みです。また、敷地内の食堂から出る食品廃棄物を堆肥化するとともに、そこから発生するバイオガスを調理に利用してLPガスの使用を減らすなど、積極的に環境負荷の低減に取り組んでいます。

さらに現在、特に力を入れているのが、CSRの情報発信です。活動を取りまとめる今仲総支配人は「CSR活動については役員会議、幹部会議での重要報告事項としタイのウェブサイトにもタイ語と英語にて活動の詳細を掲載してローカル幹部職員のみならず全従業員への浸透を図っています」と説明します。さらには、従業員向けのコミュニケーションツールとして、CSRに関する小冊子を制作し、月に1回全従業員に配布することで社内浸透にも力を入れています。

※CSR-DIW:Corporate Social Responsibility, Department of Industrial Works

従業員が誇りを持てる会社

タイでは「五つの心得」の中の「従業員が誇りを持てる会社」を目指しています。人材育成プログラムの充実には特に力を入れています。具体的には、新入社員向けのオリエン

テーション研修から、業務研修、階層別研修、繰り返しの教育研修といった形で、体系的な研修機会を提供しています。また、すべての従業員が業務の目標を持ち、それに基づき業績評価するシステムを確立しています。

従業員が安心して働けるように、公平性や人権の尊重、ダイバーシティ推進、労働安全衛生も進めています。人権に関して方針を策定するだけでなく、違反の防止や罰則のための手続きも整えています。また、タイ労働省の基準であるTLS 8001-2010を採用して第三者からの認証を受けています。ダイバーシティに関しても、ジェンダーや宗教による差別を禁止するだけでなく、食事や施設などで宗教上の配慮を行うなど、多様な価値観を尊重しています。

タイ独自の活動として、「Happy Workplaceプログラム」を行っています。従業員の心身の幸福度向上に寄与するこの取り組みは、リーマンショック後の心の停滞感を軽減し、働きがいを感じてもらうために開始しました。ハート、リラックス、ファミリーなどの8テーマに、多くの従業員が参加し、主体的に活動しています。

アクソーン人事マネージャーは「タイは現地メンバーが中心で運営を行っているため、タイの従業員が成長し、満足できる環境をつくることが重要です」と活動の理由を説明します。その一方で、タイでも高齢化が進んでいることに伴い、若年層の人材確保が課題となっています。

地域社会に歓迎されるための活動

地域の皆様から求められる活動を進めています。2017年度は各工場が定めるテーマのほかに、インフラ整備や教育支援など幅広いテーマで80のプロジェクトを行い、ステークホルダーの皆様との良好な関係づくりにつなげています。



CSR-DIW 賞表彰の様子



工場排水ゼロシステムのための設備



バイオガス貯蔵タンク

ロップリ県では、2016年から寺院の仏堂の建設を始めました。建設に際しては、2年間かけて従業員に寄付を呼びかけました。仏像の制作や、仏堂周辺での植樹活動にも従業員が協力しています。仏堂は地域住民に心の安穩をもたらす場所として、2018年中にオープンする予定です。ロジャナ工場責任者のウィラは「このプロジェクトを通じて、従業員のチームワークが良くなったと感じます。また、近隣との関係性が良くなり、すべてのステークホルダーにとって良い取り組みとなりました」と振り返ります。

また、ホアイ・ヤン・ヌン貯水池の水門修理、灌漑施設の補修、稚魚の放流、植樹に協力しました。水門は約20年放置されており、近隣では、水不足に陥っていました。近隣の村長・ロアップ氏は「ミネベアミツミが修理してくれ、水の管理ができるようになり、水を農業にも酪農にも効果的に使えるよう

になりました」とした上で、「以前は村人が何人が勤めている会社くらいにしか知られていませんでしたが、今回の活動によってミネベアミツミのことが地域に理解されたと思います」と話します。

一方、地域の子どもたちの育成につながるさまざまな支援も行っています。例えば、アユタヤ県プラ・インタラチャ町では、2016年から保育施設に対して、制服やシーツ・枕カバーの寄付、コンピューター教育への支援を行っています。町長スーチョーチャ氏は「コンピューターの知識に触れることは子どもたちにとって重要で、可能性を与えてくれるものです。これからも一緒に地域の発展に協力していただきたい」と期待を寄せています。さらに、工場ごとに毎年、支援する教育施設を決め、その学校の要望にそった活動を行っています。

CASE 1 地域の交通整備

工場周辺の交通施設を整備しています。地域の方や従業員がバス停を快適に使えるように屋根やベンチを整備しました。また、2018年には車の交通量も多く、車道の横断が危険なショッピングセンターへの通路として、歩道橋の設置に寄付しました。

「従業員への配慮に加え、地域へ支援をしてくれるミネベアミツミで働けて誇りに思います。」

「バス停は公共交通を利用する方を助け、コミュニティに利便性をもたらします。」

CSR委員会メンバー
Pinphaka Nadej
Teerapath Puangkaew



CASE 2 水耕栽培教育支援

タムレイタイ・プロドサッド小学校において、2017年から野菜の水耕栽培ができる設備を提供し、水耕栽培の研修を始めました。研修により、3種類の野菜を水耕栽培で育て、それらを調理して付加価値を高めて販売できるまでになりました。

「健康ブームのおかげで水耕栽培のニーズが高まっていますので、学ぶ機会の少ない水耕栽培での育て方を支援してもらい、非常に感謝しています。」

先生
Ms. Kanchana Duang-arthit





建立中の仏堂と近隣住民の皆様



植樹の様子



保育施設へのシーツ・枕カバーの贈呈

これからも地域に根付いて真摯なもののづくりを

タイに進出してから約40年。ミネバアミツミでは「よりよき品を、より早く、より安く、より多く、そして賢く」という「真摯なもののづくり」をコンセプトに事業活動を行ってきました。こうした活動を継続していくためにも従業員と地域社会が

らの支持が必要になります。今仲総支配人は「当社のタイオペレーションは地域の皆様とともに発展してきました。これからも環境と従業員に配慮し、地域からの期待に応えていくことが、マネジメントの使命だと思います。また、地域の皆様とのコミュニケーションをもっと深め、わたしたちの取り組みをもっと知ってもらいたいです」と抱負を述べます。

CASE 3 子どもたちへの環境教育

ワット・バンヒー小学校で、ごみの分別の環境教育を継続して支援しています。生ごみ、再生可能廃棄物などの識別方法を伝えるとともに、分別用容器を学校内・地域に寄付しました。今後、リサイクル可能なごみを集めて収益化して学校や地域に役立てていく予定です。

「活動のおかげで学校だけでなく、地域も非常にきれいになりました。良い町になり、うれしく思います。」

先生
Mr. Uthai Malijai



CASE 4 学校の設備支援

バンクムタエ小学校で、交通安全にかかわる支援を行っています。学校敷地内に車やバイクが通る道があるため、交通標識やフェンスを寄付し、子どもたちの安全を守っています。また、遊具の補修や塗装を行うなど、さまざまな支援を行っています。

「ミネバアミツミからの支援は非常に役立っています。安全設備を入れていただいたことでコミュニティの意識も変わってきています。」

先生
Ms. Kansuya Boonkerd

